令和７年度「チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業」

「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

２次募集スタート!!

１．事業内容

東日本大震災から１４年が経ちますが、原子力発電所事故による様々な風評被害や震災を知らない世代の増加と記憶の風化は大きな問題です。このような状況下において、ふるさとである福島の現状を正しく理解し、復興の当事者として復興に寄与する新生ふくしまを担うたくましい子どもの育成が重要です。

本事業「ふくしまの未来」をつなぐ体験応援事業は、震災後のふるさと福島を包括的に学び、主体的に考え、行動し、表現する社会体験活動をする子どもたちを応援します。

【１】元気を届ける交流・体験事業

被災者や避難者との交流を通して、
子どもたちが元気を発信する活動
例）仮設住宅、復興住宅等訪問、
被災者や避難者との交流・協働活動等
（清掃活動・美化活動、農業体験、伝統活動、
文化活動、震災の継承活動等）

【２】今を知り思いを伝える事業

①　ふくしまの「今を知る」活動
被災地や震災関連施設等の訪問及び
被災者や避難者との交流・協働活動等

②　復興への「思いを伝える」活動
ふくしまの復興について主体的に考え、
行動し、表現する活動等

２．補助対象団体

福島県内に主たる活動拠点があり、県内に事務所を有し、
地域において青少年育成活動に取り組んでいる実績を有している団体

国公立学校、市町村、ＰＴＡ、特定非営利活動法人、子ども会、公益法人、学校法人、復興支援団体、社会教育関係団体、青年会議所、協同組合、民間団体や企業等

３．補助対象経費

補助対象経費の８０％以内　【１】上限５０万円【２】上限２００万円

※　補助対象経費として認められない費用があります。補助金交付要綱及び実施要領で必ず確認を！

※　海外での活動費、交通費、宿泊費及びオンラインでの交流に関わる経費は、補助対象です。
（海外渡航費（航空券等）に関わる経費は、補助対象外となります。）

４．申請（提出書類）

○ **申請方法：所定の提出書類をメールまたは郵送、持参により提出**

○ **申請締切：令和７年７月１１日（金）17:15**

○ **提出書類**

- 補助金交付申請書
- 事業計画書
- 収支予算書
- 団体概要書　等

様式は、福島県社会教育課のＨＰからダウンロード
⇒「福島県社会教育課　ふくしまの未来」で検索

申請先

福島県教育庁社会教育課内
「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業　係
〒960-8688　福島市杉妻町２番１６号
024-521-7799
Ｅメール：k. syakaikyouiku@pref. fukushima. lg. jp
※　メール送付後、電話で確認をお願いします。

５．スケジュール

○　**７月下旬頃（採択事業の決定）**
→７月下旬頃（補助金交付決定）　→事業実施

実　践　事　例

事業名	高校生の紙芝居による伝承活動応援事業
団体名	特定非営利活動法人富岡町 ３・11 を語る会

【取組①高校生の紙芝居上演】 参加する高校生が、震災の語り部として活動している人たちと交流して話を聞くことで、震災の伝承の内容や方法を知る。「紙芝居」について、専門の講師から「紙芝居の歴史」「文化としての価値」「読み方」などを学び、紙芝居の魅力を発見する。紙芝居として伝えたい震災に関するテーマを選び、上演技術を工夫。実際に、幼稚園、児童クラブ、地域などで上演する。

【取組②高校生の紙芝居制作】 福島に学ぶ高校生として、地域の課題、魅力、震災、避難生活、防災などをテーマに、オリジナルの紙芝居を制作する。参加した生徒が自ら文や絵をかくことにより、震災に関する情報などを自分事化として捉えられた。

事業名	福島から北陸へ繋げるバトン
団体名	ふくしまバトン

１　事前学習会の開催

「東日本大震災・福島の産業・原発事故・能登半島地震と豪雨」について調べ学習や家族へのインタビューを行い、調べたことを共有して石川県での活動へ備えた。

２　石川県での活動

①志賀町・富来防災センターでの交流会

仮設住宅にお住まいの約 60 名の方々に日本舞踊の披露と石川県の方々へのメッセージをお伝えし、福島の特産品をプレゼントした。

②とぎ保育園にて子どもたちとの交流会

とぎ保育園の園児と学童の子どもたち約 45 名との交流会をし、①と同じ内容で活動した。子どもたちには、有志から頂いた赤べこのキーホルダーをプレゼントした。

③金沢市立北鳴中学校の吹奏楽部との交流会

ここでは①②と同じ内容の他、日本舞踊の体験会も行った。

３　福島でのミニ報告会

福島に帰ってきてからは、今回事業に参加できなかった子どもたちや保護者へ向けた事業報告会も開催した。

事業名	元気を音楽にのせて～福島からキックオフ～2024
団体名	Seeds＋

【事業概要】

◆福島の安全性や、そこに住む子どもたちの元気を発信し、福島の復興をアピールする。

・「 いわき震災伝承みらい館」と「東京電力廃炉資料館」を見学し、震災の記憶や教訓を学んだ。

・ メンバーが手書きでまとめた資料やのぼりを作成し、「るるぶ南相馬」等の冊子も配布して観光や物産、復興を PR。

・「 福島の今」報告会、映画「MARCH」の上映、「元気発信コンサート」を開催。来場者アンケートの結果、ほぼ 100%の方々に福島の復興や食の安全、防災／減災の重要性を理解していただけた。また、報告会や映画、コンサートも９０%以上の方々が　「非常によい」と評価していただいた。